

犬猫用コルディM/G

飼い主様向け資料



このたびは犬猫用サプリメント・コルディの資料をご請求くださりまして、誠にありがとうございます。

2010年、一軒の動物病院の協力のもとに誕生したコルディは、いまでは250を超える動物病院に利用されるようになりました。(2017年実績)

先進的な学会やセミナーでは、コルディを併用した治療例が複数の獣医師により発表されています。

株式会社モノリス 動物医療事業部

製品ホームページ <https://cordy.monolith-japan.com>



コルディM/Gのご紹介

コルディM/Gは、日本に自生する冬虫夏草(とうちゅうかそう)を原料にしたサプリメントです。

天然の冬虫夏草はとても希少で、採取できる量はわずかです。しかも 400 種類以上の冬虫夏草うち、私たちが有用性を認めるものは、たった数種類に限られます。

この極めて貴重な原料を、特殊技術により培養・増殖させ、適切にブレンドいたしました。

数種類の冬虫夏草をブレンドすることで、それぞれの持つポテンシャルがさらに高まると期待しています。

モノリスにしか作れない犬猫用サプリメント・コルディ。

大切なご家族の健康にお役立てください。

製品容器の表記(抜粋)

【製品名】コルディM/G 【原材料名】冬虫夏草培養物、玄米、有機ゲルマニウム(コルディGのみ)

【内容量】30g 【原産国】日本

【販売者】株式会社モノリス 埼玉県新座市東北 1-3-5

【保存方法】直射日光を避け、湿度の低い涼しいところに保管してください。

コルディM 成分分析表(100g あたり)

エネルギー	408kcal/100g	※1	-
たんぱく質	8.0g/100g	※2	燃烧法
脂質	3.4g/100g	-	酸分解法
炭水化物	86.4g/100g	※3	-
ナトリウム	5mg/100g	-	原子吸光光度法
食塩相当量	0.0g/100g	-	ナトリウム換算値
水分	1.0g/100g	-	常圧加熱乾燥法
灰分	1.2g/100g	-	直接灰化法
カルシウム	12mg/100g	-	原子吸光光度法
リン	303mg/100g	-	吸光光度法
カリウム	161mg/100g	-	原子吸光光度法
マグネシウム	122mg/100g	-	原子吸光光度法
亜鉛	2.2mg/100g	-	原子吸光光度法
鉄	0.8mg/100g	-	原子吸光光度法
銅	0.17mg/100g	-	原子吸光光度法
マンガン	1.62mg/100g	-	原子吸光光度法

※1 栄養表示基準(平成 15 年厚生労働省告示第 176 号)によるエネルギー換算係数:たんぱく質 4、脂質 9、炭水化物 4

※2 窒素・たんぱく質換算係数:6.25

※3 栄養表示基準(平成 15 年厚生労働省告示第 176 号)による計算式:100-(水分+たんぱく質+脂質+灰分)

1日の投与目安量／コルディの選び方

発がん時、がん治療時・・・体重 1kg あたり 0.4g

体重	1日量	参考
2.5kg	1g	30日分
5kg	2g	15日分
10kg	4g	7.5日分

- まず1ヶ月程度与えてみてください。進行にブレーキがかかったか、状況が改善したかを、血液検査値やレントゲン、元気さなどからご判断ください。
- 状況が改善すれば徐々に量を減らすことができます。判断に迷う場合は、弊社モノリスにお問い合わせください。

がん予防の期待(高リスク)・・・体重 1kg あたり 0.1g

体重	1日量	参考
2.5kg	0.25g	120日分
5kg	0.5g	60日分
10kg	1g	30日分

- 高リスク:発がん歴あり、10歳以上、ウイルス保有、免疫抑制剤の長期服用など。

がん予防の期待(低リスク)・・・体重 1kg あたり 0.04g

体重	1日量	参考
2.5kg	0.1g	300日分
5kg	0.2g	150日分
10kg	0.4g	75日分

- ワクチン接種の前後にはしっかり与えると良いです。免疫低下時のワクチンは危険性が増し、また効果も減弱します。
※がん治療中のワクチン接種は非常に危険です。お奨めしません。



- 1日量を1日2回以上に分割してお与えください。
- 食事や飲料水に混ぜて構いません。(※混ぜたら1日以内に与えてください。)
- 多頭飼いで別のペットが食べてしまっても害はありません。
- 添付スプーンの、すりきり一杯がおおよそ1gです。

コルディMとコルディGどちらが良いですか？

コルディGがお勧めできないのは「普段から呼吸が早い子」「短頭種の子」「肺疾患のある子」です。特に犬のリンパ腫、猫の白血病やリンパ腫、FIPやエイズなどウイルスが関与している場合、そして犬・猫共通で痛みが強いときや低体温の場合、外用薬として利用する場合はコルディGをお勧めします。

コルデイ使用例



写真①投与前のレントゲン



写真②投与開始から約 20 日後
多発した転移の影が消失

レントゲン検査により肺内に複数の腫瘍が見つかった。
頸部にも腫瘍あり。

写真①治療前、肺全体に多数の影(白)が見られた。
写真②弊社サプリメントを約 1 ヶ月投与した後のレントゲン画像。影は確認できない。
情報提供: 医師

モノリスより

動物医療の常識では、手術不応の悪性腫瘍の治療は抗がん剤だけとされています。しかし抗がん剤が功を奏する癌は一部であり、効果が得られないケースも少なくありません。化学療法は寛解や延命を目的に実施されていますが、治癒させることはありません。また体力・免疫力の低下という大きな代償を支払うため、長期の寛解維持は困難です。また化学療法には 1 回目効きやすく、その後は薬剤耐性の発現や毒性の蓄積によりメリットがなくなってくるという特性があります。そしていずれはリスクが上回るようになります。

効果がなくなってしまった(薬剤耐性となってしまった)抗癌剤治療を継続することは命の期限を短くしかねませんのでご注意ください。
治療中は腫瘍の大きさを見るだけでなく、アルブミン値や貧血の度合いをチェックし、健康状態を把握してください。もし動物病院が健康状態を軽視しているなら、飼い主様が治療継続の可否を判断してください。判断が難しいときはアドバイスをいたします。弊社モノリスにご相談ください。

がんをもっとも良く抑えるのは免疫だという事実について、あらためて考えてみましょう。抗がん剤がメインではありません。くれぐれも治療のせいで免疫力を喪失させることがないように気をつけましょう。

治療ありきではなく、ワンちゃんはワンちゃんらしく、ネコちゃんはネコちゃんらしく生きてられる時間を長くすることが大切なのではないかとモノリスは考えております。

コルディEX(液体タイプ)使用例

※写真を明るく修正しています。



写真①投与前
3つの乳腺腫瘍



写真②投与開始から約5週間
腫瘍1つは結紮により脱落

乳腺腫瘍のパピヨン犬(15歳)。極度の貧血で危機的な状況。

手術に耐える体力がないため、高濃度ビタミンC点滴療法と弊社サプリメントの内服およびスプレー塗布による治療を開始。

写真①治療前、大中小3つの腫瘍。ひとつは大きくなりすぎて皮膚が裂けている。

写真②約5週間。体調が改善し、最大の腫瘍は紐をかけて自然脱落させた。

情報提供:かも動物病院

モノリスより

犬の場合、高濃度ビタミンC点滴療法の効果は限定的ですが、サプリメントとの相乗効果を得られればとても良い治療となります。このパピヨンが好例です。

外科手術も抗がん剤治療も実施せず、危機的な状況から回復しています。

一般的な動物医療からしてみれば、「常識外れ」「まぐれ」と言われるかもしれませんが、これが真実です。

治療開始から2週間で、最大の腫瘍が30%以上縮小、他の2つの腫瘍が50%以上も縮小しています。(面積比) 体調も改善していたので、紐で腫瘍の根本を縛り、10日間かけて自然脱落させました。

乳腺腫瘍では外科手術が最善の治療とされていますが、成績は芳しくありません。事実、多くの犬猫は術後に再発しています。手術だけでは厳しいことが明らかですから、サプリメントなどの補完治療を加えるべきです。

手術は身体ダメージが大きいため、高齢、体調不良の動物には適さないこともあります。いきなり一か八かの危険な賭けに出ず、先に体力や免疫力を増進させる取り組みや、安全な治療から始めるべきと考えます。

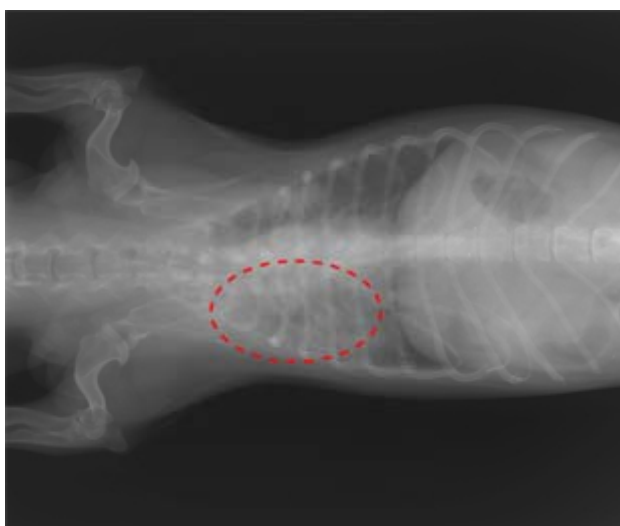
その他コルディ使用例



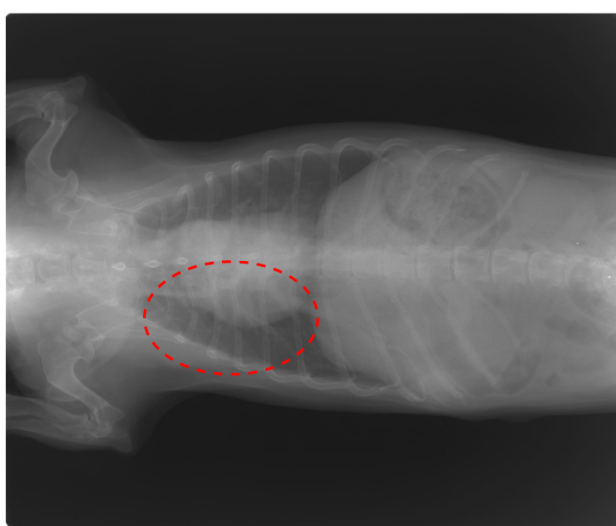
写真①治療前
犬の口腔内メラノーマ



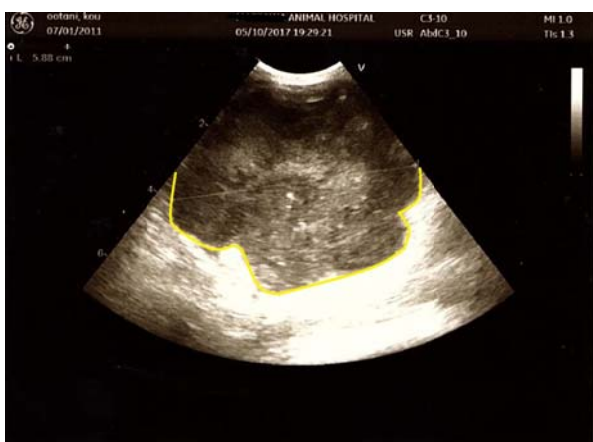
写真②コルディ/樹状細胞療法/ルペオールで長期病態コントロールができています(238 病日目)



写真①治療前
犬の甲状腺がん肺転移



写真②コルディ服用2ヶ月後
レントゲンにて転移巣が確認できなくなった



写真①治療前
猫の腹腔内悪性リンパ腫



写真②コルディ服用3ヶ月後。治療3週間で触診で確認できなくなり、さらにエコーでも確認できず。

獣医師からの声援



がん先端医療のスペシャリスト

かも動物病院 院長 伊藤獣医師

当院は手術や抗がん剤に代わる「がん治療法」を検証・実践しています。先進的な治療、ホリスティックな治療をいくつか同時に施す「多方向アプローチ」で良い成績を得ています。

治療法のひとつとして、サプリメントは重要な選択肢です。実際に役立つサプリメントはそう多くはありませんが、モノリス社のサプリメントは反応が良く、当院のがん治療に欠かすことができません。使用例はたびたび学会やセミナーで発表しています。良いものはどんどん広まるべきでしょう。応援しています。



統合医療の探究者

アイ動物病院 院長 新井獣医師

当院では動物の負担が少なく工夫次第で高い治療効果が得られる自然療法を積極的に取り入れています。治療による副作用の心配もほとんどないため、体の弱った動物や高齢の動物たちにも安心して使用することができます。

がんは難しい病気です。手術しても簡単に再発転移するため、ほとんどのがんは完全に治すことはできません。無理な手術や抗癌剤治療で苦しめるよりも体に負担をかけずにがんを大人しくさせる治療を行っております。その時に活躍しているのがコルデイです。負担の大きな治療を望まないなら、コルデイを試す価値が十分あると思います。



NHK プロフェッショナル/天才志村どうぶつ園など TV やメディアに多数出演
日本初 ペット用救急車を導入

塩田動物病院 院長 塩田獣医師

当院には日本全国から難しい手術の依頼が来ます。治療に際して最も大切にしているのは犬や猫の痛みや苦しみの軽減と治療可能な疾患に関しての最善の努力を惜しまないことです。

コルデイの素晴らしいところは、手術後の回復が早まる事や、重度の癌にも関わらず元気食欲が維持できる事。コルデイに出会い治療の幅が広がりました。

大切な家族と良い時間を過ごすためにコルデイをお勧めします。

がんに負けない方法

なぜ、がんに負けない犬猫がいるのか？

一度は余命宣告を受けたのに、再び元気を取り戻す犬猫たちがいます。どうしてなのでしょう？
まるでウソのように腫瘍の成長が止まったり、食欲や元気が出てきたり、再び走り回れるようになる子たちがいます。それはいったいなぜなのでしょう？

理由は、犬や猫たちが持っている免疫力にあった。

がんと闘うときに最も大切なことは何でしょうか？答えは免疫力です。
この当たり前のことが、日本のがん治療ではとても軽視されています。
常識とされマニュアル的に施されている手術や抗がん剤治療は、はっきり言うと免疫を下げってしまう治療です。
だから良い結果が出ないのです。
免疫が弱っていれば、再発や転移を繰り返すのは実は当然のことなのです。全身麻酔を伴う検査、外科手術、抗がん剤治療といった一連の治療が、犬猫たちの免疫力をボロボロにしていきます。

事実、免疫がしっかりしている子はがんにならない。

そもそも免疫がしっかりしている犬や猫はがんを発症しません。若い犬猫たちにがんが少ないのは免疫がしっかりと働いているからです。危ないのは免疫の働きが低下している高齢の犬猫たちです。実際に10歳を超えた頃からがんが多発します。

免疫力を回復させることができれば、がんに負けない。

つまり若いころのように、再び免疫がしっかり働いてくれれば、がんの成長にブレーキがかかるということです。がんに負けないということです。
がんとの戦いには勝ち負け以外に引き分けがあります。引き分けは「がんとの共存」であり、実質的に勝利と大差ありません。完全勝利にこだわらないことも、がんに負けないための秘訣です。
モノリスがみなさんをお願いしているのは、別に難しい治療ではありません。自宅でわずかな時間を使い、ペット自身が治ろうとする力を引き上げてもらうための、簡単なお願いです。

モノリスHP : <http://cordy.monolith-japan.com/>